



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月14日

上場会社名 株式会社エクストリーム 上場取引所 東
 コード番号 6033 URL <http://www.e-extreme.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 佐藤 昌平
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 由佐 秀一郎 (TEL) 03-6673-8535
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日~平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	1,629	0.5	150	△35.2	150	△32.9	90	△35.8
29年3月期第2四半期	1,622	—	232	—	224	—	141	—

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 96百万円(△27.1%) 29年3月期第2四半期 132百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	35.86	34.82
29年3月期第2四半期	57.52	54.69

(注) 1. 平成29年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 平成28年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首より株式分割が行われたものと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	1,935	1,176	60.8
29年3月期	2,062	1,136	55.1

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 1,176百万円 29年3月期 1,136百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	23.00	23.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成28年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成30年3月期(予想)の1株当たり配当額につきましては、株式分割を考慮した額を記載しております。なお、平成29年5月12日に公表した1株当たりの予想期末配当金及び通期配当総額の実質的な変更はありません。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,829	16.4	292	△32.9	292	△32.4	177	△36.3	70.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご参照下さい。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年3月期2Q	2,529,000株	29年3月期	2,523,000株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	142株	29年3月期	90株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年3月期2Q	2,527,048株	29年3月期2Q	2,455,382株

(注) 当社は、平成28年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨ではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調が見受けられるものの、個人消費の回復は足踏み状況にあり、先行き不透明な状況となっております。

このような環境下、当社グループを取り巻くソフトウェア業界におきましては、スマートフォンの普及が安定的に推移し、引き続き拡大傾向が続いております。また、スマートフォンにおけるゲーム市場は、平成29年度には9,600億円（出所：株式会社矢野経済研究所「スマホゲームの市場動向と将来性分析 2017」）に達すると予想されており、今後も同環境は大きく成長していくことが予想されます。

このような状況下、当社グループはゲームなどのエンターテインメント系企業及び金融・商業・サービス業などの企業へ向けた人材ソリューション・受託開発を行うソリューション事業及び、ゲームコンテンツの企画・開発・運営及びライセンスビジネスを行うコンテンツプロパティ事業を引き続き積極的に展開し、取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,629,621千円（前年同四半期比0.5%増）、営業利益は150,311千円（前年同四半期比35.2%減）、経常利益は150,471千円（前年同四半期比32.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は90,615千円（前年同四半期比35.8%減）となりました。

次に事業別状況について説明いたします。

<ソリューション事業>

ソリューション事業は、人材ソリューションサービス及び受託開発サービスの2種で構成されます。このうち、人材ソリューションサービスは、主にスマートフォンアプリ、ゲームなどのエンターテインメント系企業や金融、商業、サービス業などの企業に対し、プログラミング・グラフィック開発スキルを持った当社社員（クリエイター&エンジニア）が直接顧客企業に常駐し、開発業務を行っております。受託開発サービスについては、当社社員が直接顧客企業に常駐し、開発業務を行う場合と案件を持ち帰り、開発～納品～保守・運用を行うケースに分別されます。

当第2四半期連結累計期間においては、スマートフォンを中心とした開発案件における旺盛な需要に支えられ、受注が安定的に推移し、人材ソリューションサービスにおける稼働プロジェクト数は2,123となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,613,165千円（前年同四半期比2.4%増）、セグメント利益は381,968千円（前年同四半期比16.0%減）となりました。

<コンテンツプロパティ事業>

コンテンツプロパティ事業は、ゲームサービス、ライセンスサービス、協業開発サービスの3種で構成されますが、当第2四半期連結累計期間においては、主にゲームサービスに力を入れてまいりました。

ゲームサービスにおいては、既存タイトルである『つみにん〜うみにん大サーカス』（スマートフォンアプリ）、『フルーツ・フォレスト』『バトルドラゴン いにしへの財宝』『ミステリーハート 琥珀の心臓』（PCブラウザゲーム）を引き続き運営してまいりました。

ライセンスサービスについては、「PROJECT EGG」（レトロゲームダウンロードサービス）にて、当社保有IPである『改造町人シュビビンマン2（PCエンジンソフト）』の配信が当第2四半期連結会計期間において開始されました。

協業開発サービスについては、大手ゲームパブリッシャーから開発案件を受注しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は19,384千円（前年同四半期比58.9%減）、セグメント損失は3,055千円（前年同四半期はセグメント損失9,245千円）となりました。ライセンスサービスについては利益を確保いたしましたが、ゲームサービスにおいて、一部タイトルの売上高が計画を下回ったこと、また協業開発サービスにおいて、受注損失が発生したことからセグメント損失が発生いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 総資産・負債・純資産の状況

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、投資有価証券の増加62,356千円があったものの、現金及び預金の減少102,123千円などにより、1,935,116千円となり、前連結会計年度末と比べ127,499千円の減少となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、短期借入金の減少50,000千円、未払法人税等の減少96,445千円などにより、758,944千円となり、前連結会計年度末と比べ167,504千円の減少となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、利益剰余金における配当金の支払に伴う減少58,026千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う増加90,615千円などにより、1,176,172千円となり、前連結会計年度末と比べ40,005千円の増加となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ100,460千円減少し、819,837千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は98,773千円(前年同四半期比45.4%減)となりました。これは、主に法人税等の支払額156,706千円があったものの、税金等調整前四半期純利益150,471千円及び売上債権の減少による資金の増加40,180千円などにより資金獲得したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は58,020千円(前年同四半期比80.0%減)となりました。これは、主に投資有価証券の取得による支出55,400千円により資金使用したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は141,800千円(前年同四半期は262,302千円の収入)となりました。これは、主に短期借入金の減少50,000千円及び配当金の支払額57,775千円などにより資金使用したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ソリューション事業において売上の主要を占める人材ソリューションサービスにつきましては、部門毎の前期末稼働プロジェクト数をベースに、当期採用予定数及び離職率予想などを勘案して算出し、合理的な積み上げ予測に基づいて推定される収益を予想値としております。具体的には当期首345.5プロジェクトを起点に、当期末476プロジェクトまで月次稼働プロジェクト数が推移すると見込んでおります。なお、当事業年度9月における月次稼働プロジェクト合計数は、371.05となっており、当期首月次稼働プロジェクト数から26.7増加しております。

稼働単価につきましては、期首期末とも604千円を見込んでおります。なお、当事業年度9月における稼働単価につきましては、603千円となり、期首604千円より千円の減少となりました。

平成28年4月15日付にて子会社化した株式会社ウィットネスト(以下、子会社)におけるソリューション事業については、子会社が新設分割される以前のピーシーフェーズ株式会社における対象事業の過去の経営成績および現在受注済もしくは受注確度が高いプロジェクトの積み上げによって予想値を算出してしております。

コンテンツプロパティ事業につきましては、運営中タイトルと開発進行中タイトルの積み上げにより算出した収益を予想値としております。運営中タイトルは、過去の実績等に基づきプラットフォーム毎に予想値を算出しており、リリース後の時間経過による利用者の減少状況を勘案しつつ、利用者数に対する課金率、課金単価実績を乗じた日次売上を積み上げ、通期の収益を予想値として策定しております。

以上の結果から、平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月12日の「平成29年3月期決算短信[日本基準]（連結）」発表時の業績予想から変更しておりません。なお、業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	916,150	814,027
受取手形及び売掛金	435,059	394,878
有価証券	4,001	5,310
仕掛品	22,070	847
その他	63,929	69,424
貸倒引当金	△342	△345
流動資産合計	1,440,869	1,284,142
固定資産		
有形固定資産	65,438	60,582
無形固定資産		
ソフトウェア	3,980	3,134
のれん	202,049	176,792
無形固定資産合計	206,029	179,927
投資その他の資産		
投資有価証券	253,611	315,967
その他	96,668	94,497
投資その他の資産合計	350,279	410,465
固定資産合計	621,747	650,974
資産合計	2,062,616	1,935,116
負債の部		
流動負債		
短期借入金	50,000	—
1年内償還予定の社債	43,000	43,000
1年内返済予定の長期借入金	31,240	34,080
未払金	254,761	243,309
未払法人税等	165,864	69,418
賞与引当金	61,910	61,147
その他	90,333	114,569
流動負債合計	697,109	565,524
固定負債		
社債	144,500	123,000
長期借入金	84,840	67,800
その他	—	2,620
固定負債合計	229,340	193,420
負債合計	926,449	758,944
純資産の部		
株主資本		
資本金	307,211	308,111
資本剰余金	305,919	306,819
利益剰余金	528,576	561,164
自己株式	△173	△298
株主資本合計	1,141,533	1,175,797
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,366	374
その他の包括利益累計額合計	△5,366	374
非支配株主持分	—	—
純資産合計	1,136,166	1,176,172
負債純資産合計	2,062,616	1,935,116

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1,622,189	1,629,621
売上原価	1,033,472	1,070,835
売上総利益	588,717	558,785
販売費及び一般管理費	356,705	408,473
営業利益	232,011	150,311
営業外収益		
受取利息	1,447	2,643
その他	1,103	354
営業外収益合計	2,550	2,998
営業外費用		
支払利息	591	549
社債発行費	2,015	—
為替差損	6,071	687
支払手数料	1,270	1,318
その他	270	283
営業外費用合計	10,219	2,838
経常利益	224,342	150,471
税金等調整前四半期純利益	224,342	150,471
法人税等	83,114	59,855
四半期純利益	141,228	90,615
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	141,228	90,615

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	141,228	90,615
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,058	5,741
その他の包括利益合計	△9,058	5,741
四半期包括利益	132,170	96,357
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	132,170	96,357
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	224,342	150,471
減価償却費	7,657	8,322
のれん償却額	25,256	25,256
賞与引当金の増減額(△は減少)	△471	△762
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,345	3
受取利息	△1,447	△2,643
支払利息	591	549
社債発行費	2,015	—
為替差損益(△は益)	5,758	△586
売上債権の増減額(△は増加)	△100,948	40,180
たな卸資産の増減額(△は増加)	△9,379	21,223
未払金の増減額(△は減少)	47,460	△11,651
その他	△7,530	23,879
小計	189,959	254,241
利息の受取額	1,447	1,718
利息の支払額	△585	△479
法人税等の支払額	△9,949	△156,706
営業活動によるキャッシュ・フロー	180,871	98,773
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,262	△2,620
投資有価証券の取得による支出	—	△55,400
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△243,692	—
差入保証金の差入による支出	△44,002	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△289,958	△58,020
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,100	△50,000
長期借入れによる収入	120,000	—
長期借入金の返済による支出	△15,040	△14,200
社債の発行による収入	177,984	—
社債の償還による支出	△3,500	△21,500
自己株式の取得による支出	—	△124
株式の発行による収入	2,160	1,800
配当金の支払額	△24,401	△57,775
財務活動によるキャッシュ・フロー	262,302	△141,800
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,758	586
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	147,457	△100,460
現金及び現金同等物の期首残高	562,176	920,297
現金及び現金同等物の四半期末残高	709,634	819,837

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算方法)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。